

# 長畝ふるさと通信



【2023年9月号】

## ■ 異常事態発生

心配されたコメの高温障害は予想をはるかに上回るものでした。何と1等米が一つもない……これまでに経験した事の無い異常事態です。JA佐渡が公表している9月30日現在の検査状況ではコシヒカリの1等米比率はわずか3.9%で、2等米41.5%、3等米54.6%となっています。また、3等以下の「規格外」も全体の約5%も出ています。



上の写真は9月28日に検査に出した組合のコシヒカリの測定結果です。1等米の整粒歩合（形の整い具合の事で、粒の厚みや大きさ、揃いの程度など）は70%以上と決まっていますが、60%以上が2等米となります。機械の測定値は整粒44.4%となっていますが人間の検査員の判定では2等米となりました。食味計による「食味値」は例年なら80点くらいですが、今年は米粒に含まれるタンパク値が低かったせいで83~84点と高い値が出ています。県からも食味には影響がないとの発表がありましたが、むしろ今年のお米の方が皮肉にも食味値は例年より高く出ています。ただし、白い粒は空気を多く含んでもろくなっていますので、優しく研いでいつもより水を少なめにし炊飯することがおいしく炊くコツになります。

## ■ 新しいコンバインを買ったのに・・・ライスセンターは不夜城となり・・・

昨年秋に納品予定だったコンバインが世界情勢の悪化で納品が遅れてしまい、1年遅れでデビューとなりました。購入価格はおよそ1000万円。まさかこんな年になるなんて・・・



ライスセンターは刈り取ったモミを乾燥し臼摺をして玄米にする施設です。その過程で色彩選別機があり、斑点米や未熟粒などを取り除き1等米に仕上げていくのですが、今年は高温障害を受けシラ

タ米が多く、こいつを取り除くためには色彩選別機の能力を最大限に上げなければなりません、その分処理能力が恐ろしく遅くなってしまいます。組合では9月8日から約一か月間、早朝6時から夜中の12時まで毎日交代制で臼摺作業に取り組んでいます(現在も継続中)が、普段の倍の時間と手間をかけても努力むなしく1等米は出来ず、しかも3割近くは3等米になっています。JA買取価格の1等米と2等米の価格差は一俵800円ですから、6000俵でおよそ480万円強の減収となりますが3等米も入れるとさらに減収となり・・・これ以上は怖くて計算できません。

## ■ 対岸の火事ではない

地球温暖化の影響で世界各地で甚大な自然災害が発生しています。我が国も例外ではなく、我々が一番心配しているのは「この異常事態は今年限りではない」ということが安易に想像できる



ことです。来年以降も酷暑に見舞われ、近い将来稲作の適地ではいられなくなるのではないかと。「廃業」に追い込まれない為にはどうすればよいのか、大きな転換期を迎えたようです。

彼岸中は暑すぎて咲かなかった彼岸花がようやく咲きそろいました。秋の虫たちも夜通し鳴いています。やっと秋が来た感じです。食欲の秋を存分にお楽しみください。おかわりは自由です。